


心理学部 心理学科
教授 水田 敏郎 MIZUTA Toshio
専門・活動分野 障害児心理学、発達心理学、生理心理学
最新の研究内容
テーマ：発達障害児の行動調整機能に関するサポート
研究/活動紹介
①発達障害児の行動調整機能の改善

発達障害児にみられる知覚-運動系機能の問題（いわゆる手先の不器用さ）に着目しています。動物と接触する際の手指の複雑な運動経験を重ねることで行動調整機能の改善を目指した研究を行っています。小学生児童や大学生の動物飼育や接触経験前・後の指運動や身体の粗大な運動が精緻化する過程を実験データを交えながら検証しています。これまでに、小動物との長期接触が指運動の精緻化に有効であることを示すことができました。また近年は、これらの発達障害の問題の背景には時間知覚の歪みが存在することに注目が集まっています。これを受けて、ヒトがタイミングをとる（心理的な時間を測る）ときに生じる脳内活動にアプローチするために、脳波を用いた実験的な研究を行っています。

<ハムスターをつかむ指運動の記録の様子>


②睡眠障害の改善—睡眠誤認へのアプローチ—

悩み事や不安を抱えることで軽度のうつ状態が生じ、睡眠に問題が生じることがあります。例えば、眠りにくい、眠りの途中で目覚めてしまう等が代表的な症状です。これらは一般に不眠と呼ばれ、様々な神経症や精神病の入口とも言われており、初期の改善が重要です。私たちの研究室では、環境を操作することで人為的に不眠に近い症状を呈する状態を作り出し、その原因を脳波や心拍など様々な心理生理学的指標を用いて探ってきました。その結果、（脳波や心拍などの指標に基づく）客観的なデータからは眠れていると判断できるにも関わらず、主観的には眠りを感じ取れていないという、“睡眠誤認”（身体と心の乖離（かいり））が一部の不眠を感じる人に生じていることが分かりました。そして、その誤認を改善していく手法にアプローチしています。

<脳波分析演習の様子>


産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- ・ 知的障害児、肢体不自由児、重症心身障害児、発達障害児の生理心理学的研究を継続してきました。これらの対象に対する心理的アセスメント、教育・療育機関の方の相談を受けることが出来ます。また、障害児・者への支援介入の客観的な効果測定などが可能です。
- ・ 睡眠をはじめ、覚醒水準や快適性の評価の研究を行ってきました。商品や労働環境に関連する感性評価などを行うことが可能です。

学会・経歴

- ・ 日本特殊教育学会 会員
- ・ 日本生理心理学会 評議員
- ・ 日本心理学会 会員
- ・ 中部人間学会 会員
- ・ 北陸心理学会 会員
- ・ 福井県心身障害児
就学指導委員会 委員長
など

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp